
花守の娘とロマンを求める男

天馬 龍星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花守の娘とロマンを求める男

【Nコード】

N0022Z

【作者名】

天馬 龍星

【あらすじ】

れつじやい
裂鋼迅雷。

信仰学、特にアルネシア神と堕ち神の關係に興味がある。
親に連れられて何度か、聖地・アナスタシアに行ったことがある。
うちの親は共に敬虔な信者で、心の底からイヴを崇拜しているからだ。

夢は教会で働くことなんだ。
その夢を叶えるためにここに進学したというのは、建て前で一人暮らしがしたかったというのが大きい。

両親を説得するためには調度良かったというのもあるが、ここは去年まで女子校だったため、女子の比率が高く、しかも美少女が多いと聞いたら、入学するに決まっている。

男はロマンを求める生き物だからね。ハーレムという響きに淡い期待を抱いてしまったんだよ。

美少女好きで男性嫌い。潔癖症。

入学式 その1

「今日からここ通うのか？」

統一教会花守学園それが、これからボクの通う学校の名前。そしてボクの名前は裂鋼^{れっこうじんらい}迅雷。どうしてこの学院を選んだかという信仰学、特にアルネシア神と堕ち神の關係に興味があるからだ。親に連れられて何度か、聖地・アナスタシアに行ったことがある。うちの親は共に敬虔な信者で、心の底からイヴを崇拜しているからだ。ボクの夢は教会で働くことなんだ。その夢を叶えるためにここに進学したというのは、建て前で一人暮らしがしたかったというのが大きい。両親を説得するためには調度良かったというのもあるが、ここは去年まで女子校だったため、女子の比率が高く、しかも美少女が多いと聞いたたら、入学するに決まっている。男はロマンを求める生き物だからね。ハーレムという響きに淡い期待を抱いてしまったんだよ。

見渡す限りの女子、白いセーラ服を身に纏った麗しの乙女達。共学最高！ここはまさに秘密の花園だ。爬虫類の鱗のようなものに覆われた手足や、岩のようにゴツゴツした身体やら全身に包帯を巻いた女性などを見かける。えっ！目を擦り、もう一度見るが、どうやら見間違いないじゃないみたいだ。教会が運営する高校だからか？教会は統一宗教と呼ばれさまざまな宗教が混在しているため、日本国籍を持たない者を所属している。統一宗教には国境はなく、差別もないため、日本人以外も多く受け入れていると聞いたことがある。

入学式は体育館で行なわれるので、体育館を目指して歩いていると、うる若き乙女の悲鳴が聞こえてきた。声がしたほうを見ると、すでに人だかりができていた。うあ、野次馬がたくさんいるなと思いいながら、人波の中に潜り込んでいく。だって何が起きたのか？気になるじゃないか。好奇心を旺盛な年頃なんだよね。

制服ではなく赤と白を基調とした巫女服を着た女性が、ギャルぽい

茶髪の女性を踏みつけていた。『きゃあ　巫女姫様カッコイイ』
という黄色い声が複数聞こえてくる。先、耳にしたのもこの歓声な
のかしれない。巫女姫と呼ばれた女性は非常に整った顔立ちをして
いた。純粹に綺麗な人だなと思った。

「これに懲りたら、もう風紀を乱すことはしないことね。次は退学
処分になりますから　肝に命じ解いてください」

「は、はい」

「では、体育館に参りましょう。もうじき入学式が始まりますから」
その一言で体育館まで道が作られる。その道を優雅に堂々と進んで
いく、後ろ姿は凛々しくて威厳に満ちていた。彼女の姿が消えるま
で見つめてから、ボクは体育館に向けて再び歩き出した。

入学式 その2

体育館に到着したボクは、椅子に座り入学式の開始を待っていると隣りに座っているフリフリの改造制服を着た朱色の髪をした女子に話しかけられた。

「ねえ、キミってもしかして。志野神中^{しのがみ}の裂鋼迅雷^{りんかいすずは}じゃない。忍者なんでしょう。私は臨海^{りんかい}鈴刃^{すずは}、キミの大ファンかな？ よろしく」と、手を差し出してくるので「こちらこそ、よろしく」と挨拶を交わした。そのあとも、しばらく話していたら入学式が始まり、巫女姫様の新人生へのメッセージというのは、平たく言えば、入学おめでとうということだろう。何か小難しいことを長々と話しているが、まともに聞いている人はいないだろう。巫女姫様の話が終わり、新人生代表の挨拶が始まった。壇上で話す姿勢は、新人生とは思えないほど凛々しく堂々としている。文句のつけようのないくらい完璧な挨拶をしたのは、花守虹彩^{はなもりアイリス}という少女である。少女挨拶が終わると今度は、これからのスケジュールと校則について説明が長々と続き、入学式も終わり校内を歩いていると萌え萌え信仰学部からチラシをもらった。

新入生を勧誘するものだろう。チラシにはイヴの伝説について書かれており、下にはアルネシア文字で『部員募集中』が書かれていた。それをくしゃくしゃに折り曲げポケットにしまい校内探索を続けていると

「ねえ、迅雷くん。先、萌え萌え信仰学部からチラシもらってたよね。もし良かったら、一緒に入部しない。私、イヴの伝説にちょっと興味あるだよね」

「確か……臨海鈴刃さんだけ……」

「鈴刃でいいわ」

「で、鈴刃さんは何で ボクを ……誘ってくれたの？」

「それはキミ興味があるからだよ。キミの噂はいろいろと聞いてい

るよ。だからね、一度ね、会ってお話してみたいなと思っていたんです。それに迅雷くんは忍者なんですよ。ウフフ　これからの学園生活が楽しみだわ」

どこかうつとりとした顔で、絹のように細い朱色の髪を靡かせ、手櫛^{てし}を入れて優雅に佇んでいる姿は、素直に美しいと思えた。

「それは光栄です。あなたみたいな美しい女性に興味を持ってもらえるなんて　でもボクは、鈴刃さんのことをよく知りませんが、確かに萌え萌え信仰部には興味があります。イヴと堕ち神の関係性を調べるための手段としてこの高校に入学しましたからね」

「なら、話は早いはいこれから、見学にいかない」

「今日は止めておきます。もう少し校内を見て周りたいので」

「わかった。引き止めちゃって、ごめんね。じゃあ、またね」

鈴刃さんと別れ、校内探索を続ける。めばしい所は、あらかた見て回り、日も暮れてきたので今日はもう帰ることにした。

男子寮

男子寮に着いたボクはそのまま自室に向かった。一週間前から入寮しているので、寮での生活もだいぶ慣れてきている。まあ男子寮と言っても一、二だけで三階以上は女子住んでいるので 共寮とも呼ばれている。トイレやシャワー室などはもちろん別ですし、盗聴、盗撮といった覗き行為の心配ありません。なぜかというところが普通の寮ではないからです。寮母さんの異能力『聖なる領域・セイクリッドフィールド』の中では性欲は吸収され、どんなエロ餓鬼でも変態でも聖人ようになってしまふのです。

また煩惱のある人は二階から三階に行くこともできません、聖なる壁・セイクリッドバリアがあるので、女性は安心して生活することができます。交流を深めるために談話室もありますが、利用する人は少ないです。

とりあえず自室の戻ったボクは、荷物を床に置き、部屋着に着替え、ベッドに倒れ込みながらこれからのことについて考え始めた。明日は学科別に学力テストに身体測定、健康診断、体力測定、信仰力測定というものであるらしい。それらのデータを統計してクラス分けするらしい。S〜Eクラスまであり、Sクラスになれば特権が与え、有意義な学園生活が送れるらしい。どんな特権がもらえるのは教えてくれなかったが、根拠のない憶測の域をできない意見が見え飛び交っていたのを覚えている。あとは部活か、一樣見学に行ってみようかな？ ちょっと興味あるしね。そろそろ食堂に行ってご飯でも食べるかな。お腹すいてきたしね。

食堂で夕食を済ませたボクは自室に戻ってきたいた。寮内に知り合いがいないボクは自室以外で過ごすことはない。人見知りが激しいため、友達を作ることもできないでいる。この寮に入って一週間経つが、これといった問題は特になく、快適な寮生活を送っている隣にどんな人が住んでいるのかわからないのは少し不安が、気にす

るほどのことではない。何度か、挨拶に行ったのだが？　いまだに会えていないというか、この寮にどんな人が住んでいるのか、全然わからない。親睦会という交流するイベントみたいなものがまったくなし、積極的に話しかけるタイプではないので、こうして自室で読書をしているわけだ。今日はこれくらいにしてもう寝るか、明日の実力試験に響くかもしれないからな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0022z/>

花守の娘とロマンを求める男

2011年12月1日21時59分発行